

地域に根ざした 科学技術コミュニケーションに取り組む

～コンセンサス会議とDeliberative Pollingを中心に～

杉山滋郎
(北海道大学)

何者？

- 理学研究院 物理学部門 教授
- 理学院 自然史科学専攻
科学コミュニケーション講座
– 科学コミュニケーション・科学技術社会論・科学史
- 高等教育機能開発総合センター
(10月より、高等教育推進機構)
科学技術コミュニケーション教育研究部
(CoSTEP) 部長



科学技術コミュニケーションに取り組む

- CoSTEPという教育組織
 - 科学技術コミュニケーターを育成
 - 実践活動を通して学ぶ
 - 広報誌／映像作品／各種イベントの企画制作
 - スタッフ9名、実務経験も豊富
- 地域に根ざした科学技術コミュニケーション
- 一般の社会人も受講生に迎える

<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/>

SCを地域に根づかせるために ～きょうの報告の構成～

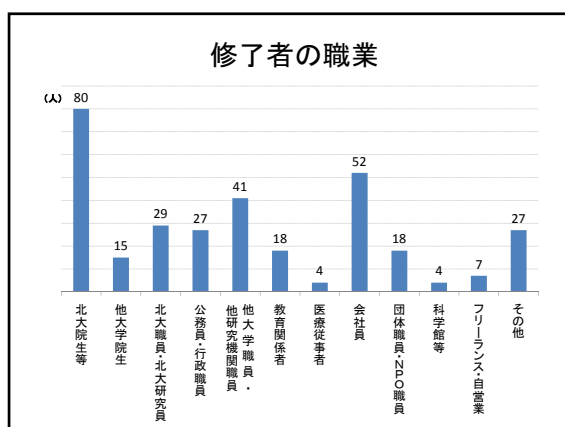
- 数々の工夫
- その他の事例、2つ
 - コンセンサス会議
 - Deliberative polling
- そこから浮かび上がってくること

科学技術コミュニケーションの3要素

- コンテンツ／テーマ(課題)
- リソース
 - 人材
 - 組織
- 手法

数々の工夫

- 地域の人を迎える
 - 受講生として
 - スキルを借りる
- 場所を借りる
 - サイエンス・カフェ札幌
- メディアを借りる
 - OJTの場として
 - 広報の場として



科学技術コミュニケーションの3要素

- コンテンツ／テーマ(課題)
- リソース
 - 人材
 - 組織
- 手法

科学技術コミュニケーションの3要素

- 遺伝子組換え作物の栽培
 - 北海道での
- CoSTEP+北海道庁
 - CoSTEPの、スタッフ&受講生
 - 北海道農政部、食の安全・安心委員会
- コンセンサス会議

コンセンサス会議とは

- 市民が参加する、テクノロジー・アセスメントの方法
- 社会的に争点のある科学技術分野の問題について
- 市民が合意をまとめて、発信／提言

実際の進め方

- 市民15人ほどが市民パネルを構成
- 専門家から情報提供→「鍵となる質問」作成
 - 回答を得て、市民パネルで議論
 - ファシリテーターが議論をサポート
 - 合意(提言)をまとめて、発表
- 全体で4日間、が標準



日本での実施例(主なもの)

- 1998年 遺伝子治療をテーマに
- 2000年 遺伝子組換え作物をテーマに
 - 農水省の委託で
- 2006年 遺伝子組換え作物コンセンサス会議
 - <http://gm-c.sakura.ne.jp/>
- 2008年 未来の食を考える、ミニ・コンセンサス会議
 - <http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/nanotri/>
 - Upstream engagement

遺伝子組換え作物コンセンサス会議

道民が、専門家と対話しながら考え、議論し、提言をまとめます。

主催：北海道 運営主体：コンセンサス会議実行委員会
協力：北海道大学科学技術コミュニケーションセンター(CoSTEP) / 遺伝子組換え作物対話フォーラムプロジェクト

<p>トップ(新着情報)</p> <p>過去の報告情報</p> <p>コンセンサス会議とは？</p> <p>5分デモットク</p> <p>開催概要</p> <p>会議スケジュール</p> <p>道民委員(市民パネル)</p> <p>実行委員会</p> <p>議論経緯と結果</p> <p>鍵となる質問</p> <p>専門家からの回答と市民委員の作成</p> <p>市民提案</p> <p>依頼・問い合わせ</p> <p>会議の依頼について</p> <p>問い合わせ・ご意見受付</p>	<p>世界的にもさまざまな議論のある遺伝子組換え作物の栽培について北海道民の知恵を出し合って考えるため、2006年11月から2007年2月にかけて、札幌市内で「コンセンサス会議」が開催されました。当サイトでは、この会議についての情報を実行委員会事務局が発信しています。</p> <p>新着情報</p> <p>コンセンサス(市民提案)がまとまりました</p> <p>2006年秋から4回にわたって開催されてきた「遺伝子組換え作物コンセンサス会議」の結果、「北海道における遺伝子組換え作物の栽培」についての道民の意見、「コンセンサス会議」からの市民提案一」が、2月4日にまとまりました。(2007.02.05) 市民提案の全文を読む</p> <p>コンセンサス会議 第4回目(2月3日・4日)が開催されました</p> <p>2月3日(土)と4日(日)の2日間にわたり、コンセンサス会議の第4回目(最終回)となる会合が、北海道庁内で行われて行われました。専門家から「鍵となる質問」への回答を開始、道民委員として議論して、2月4日には「市民提案」をまとめたの上げました。その議論の様子などをお伝えします。(2007.02.05) 詳しく見る</p>
--	---



GMOコンセンサス会議の背景

- GMO栽培に関する、道の条例(2005年)
 - 研究目的の場合/生産目的の場合
- 3年後に見直し
- 道民の意向を知る
 - 市民の合意を「食の安全・安心委員会」に提出
 - → **日本初の、実用段階のもの**

実施体制

- 主催:北海道
- 運営主体:コンセンサス会議実行委員会
 - 委員長と委員(ファシリテーター)にCoSTEP教員
 - 事務局に複数のCoSTEP受講生(1人は農政部職員でもある)
- 協力:CoSTEP、GMO対話フォーラムP

効果

- 社会技術の技術移転
 - コンセンサス会議の手法を、教育を通して移転
 - 道職員に、CoSTEP受講生(→社会)に
- コンセンサス会議の有効性をアピール
- 地域性への気づき

SCを地域に根づかせるために

- 数々の工夫
- その他の事例、2つ
 - コンセンサス会議
 - Deliberative polling

科学技術コミュニケーションの3要素

- BSE全頭検査
- CoSTEP+?
 - CoSTEPの、スタッフ&受講生
 - メディア(既存メディア/市民メディア)
- Deliberative Polling

Deliberative Polling とは

- James Fishkinが提唱(1991)
- 熟議型(討議型)世論調査
 - 熟慮をしたうえで世論を調査
 - 熟慮と討議
- 市民が“学ぶ”機会にも

具体的には

- 市民(無作為抽出)に質問票を送る
- 150~300人の市民に集まってもらい
 - 専門家からの情報提供
 - 市民どうし/専門家との討議
- あらためて、同じ質問に答える

得られるものは

- 熟慮をしたうえでの世論
 - 市民の“合意”をめざすのではない
- 政策決定のためのデータ
- 関心の喚起、より深い理解
 - メディアとの連携により

BSE全頭検査とは

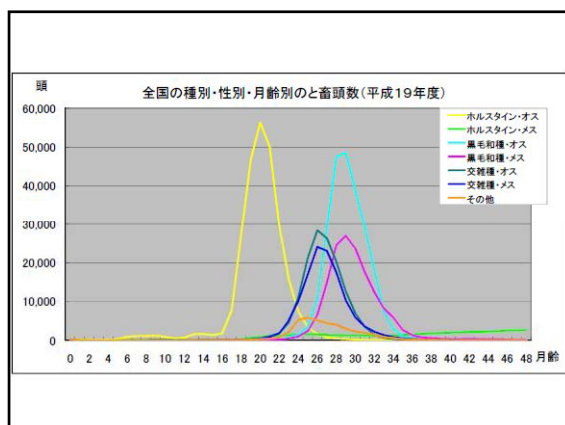
- 特定危険部位の除去+BSE全頭検査
- 異常プリオンの検出感度には限界がある
- 20ヶ月齢以下では、検出不能

では、どうする？

- 21ヶ月齢以上だけでよい
 - 食品安全委員会の見解
- でも、消費者の反応が・・・
 - 自治体などが独自に実施
 - 実質的に、全頭検査が継続
- まだ継続する？
 - 科学的には無意味なのに

北海道には、特有の事情が

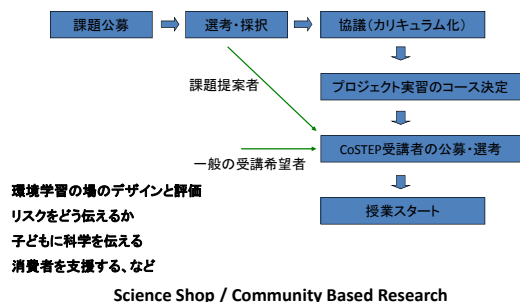
- ホルスタインが多い
- 20か月例以下での屠畜頭数が多い
- 北海道のみに重い負担
 - 地域性が全面に出てる



地域に根づかせるために

- “プロジェクト実習”という仕組み
 - Community Based Research, Science Shop のSC版
 - 人(人材育成)を通して
- 地域性 (locality) への配慮
- “大人”への働きかけが課題
 - “大人”をいかに巻き込むか
 - 地域メディアとの連携
 - “市民メディア”の創出？

プロジェクト実習のしくみ



お粗末様でしたm(_ _)m